

# すずきものの しまっかいどう スケッチ

第55回

## ピンク色の絨毯が

## 広がる町へ

このコラムが前回からカラーになったので、綺麗な春の景色を描きたくてどこにしようかと悩む。春になると思い出すのは道東の芝桜。もしかしたら滝上町の芝桜は以前も描いたかもしれないが、今回は「ひがしもと芝桜公園」をカラーで描いてみることにした。

かれこれ25年くらい前、道東の芝桜を見に友人たちと3家族で出かけたのが、初めて見た芝桜だった。一面に広がる芝桜と周りの緑や空の青とそのコントラストが美しく、しばし見つめていた。ところで、滝上や東藻琴の芝桜はどうして植えられたのだろうか？ と思い、紐解いてみた。

滝上の芝桜は1957年にみかん箱一つの苗を公園の片隅に植えたところから始まったらしい。それまで町民に親しまれていた桜の木が害虫や洞爺丸台風で倒れてしまい、桜に替わる花を探し見つけたのが芝桜だったそうだ。芝桜を公園いっぱい増やす運動も始まり、毎年苗を植え続け今では10ヘクタールの広さを持ち、日本一を誇る芝桜公園となった。

また、大空町（旧東藻琴村）では一人の農家が終戦当時から芝桜を自宅でコツコツと栽培していたところ、1977年に公社からの要請を受けて職員となり、藻琴山の麓に自宅から苗を運び、一人植え続けたそうだ。今では大空町と同様に10ヘクタールの広さをもつ美しい芝桜の名所になった。どちらも長い間手間をかけ、美しい公園になり、たくさんの来訪者の憩いの場や癒しの場になっていったのである。道内道外、いろいろな場所に芝桜公園があるが、どこもその美しさでたくさんの人を楽しませているに違いない。

花を愛でることができ、心地よく、この美しい景観を未来の子どもたちも楽しめるような世の中が続くよう、今のご時世を見て、祈るばかりである。





## すずき もも

イラストレーター・絵本作家／元スローフードさっぽろ事務局長

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？」（アリス館）「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ？くだもの」（アリス館）がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。